

いわき農林水産ニュース

令和2年1月号（第179号）発行 1月30日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



県オリジナル品種の「ふくはる香」。
強い甘みと舌ざわりの良さが
特徴です。

目次

- ・【新春を迎えて】県農林水産部長 年頭挨拶……p.1
- ・【新春企画】いわき市農林水産部長インタビュー……p.2

〔各種取組の実績（1月分）〕………p.5～

〔お知らせ・連載記事〕

- ・いわき地方の出荷制限等品目………p.8
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.8
- ・第3回高校生レシピコンテストグランプリ決定！……p.9
- ・イベント情報………p.10
- ・GAP コーナー………p.11
- ・6次化商品紹介………p.12

【新春を迎えて】

県農林水産部長 年頭挨拶

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

新しい令和の時代を迎えた昨年を顧みますと、未来を拓く農業人材を育成する福島大学食農学類の開学を始め、避難指示が一部解除された大熊町における最先端技術を導入した大規模イチゴ栽培施設の完成や、南相馬市等におけるスマート農林業の展開、「ふくしま型漁業」確立の一躍を担う海洋研究センターの開所など、震災からの復興と創生がさらに前進した一年でありました。

また、将来の本県農業を担う新規就農者は5年連続で200名を超え、米、桃や梨等の県産農産物の輸出量が過去最高を更新するなど、本県農業は将来に向けてその歩みを着実に進めております。



福島県農林水産部
松崎浩司部長

いわき地方においては、イチゴ養液栽培施設の規模が拡大するとともに、取組開始から3年目となるベトナム向けの梨の輸出が継続されているほか、管内で初めてきのこ生産者が福島県 GAP の認証を取得されるなど、関係の皆様御尽力もあって、各分野における取組が力強く進められてきております。

一方、甚大な被害をもたらした台風19号等により、本県農林水産業は600億円を超える大きな被害が発生しました。いわき管内でも50億円を超える被害が確認されており、県では、被災農林漁業者等の経営再建や農地・農業用施設等の復旧に向け、市町村や関係団体等と一丸となって取り組んでいるところです。

今年は震災から10年目を迎え、復興・創生期間の最終年度となるとともに、復興五輪である東京オリンピック・パラリンピックが開催される重要な年となります。

県といたしましては、台風19号等災害からの速やかな復旧はもとより、復興・創生期間後に必要となる取組を視野に入れながら、引き続き、『流通・販売の強化』、『生産活動の拡大』、『生産基盤の整備』の3本を柱として本県農林水産業の再生と成長産業化をさらに進めていきたいと考えております。

これらの柱の下、東京オリンピック・パラリンピックにおける認証GAP食材やビクトリーブーケへの県産花きの供給等による国内外へのふくしまブランドの発信、産地間競争に負けない選ばれる産地づくりの強化など、生産から流通、販売に至るまで、幅広く農林水産業の振興を図ってまいりますので、本年も皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

【新春企画】

いわき市本田農林水産部長 新春インタビュー

インタビュアー あけましておめでとうございます。新春を迎えて、2020年にいわき市が新たに組み込んでいきたいことについて、いわき市農林水産部 本田和弘部長にお話を伺いたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本田部長 あけましておめでとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

インタビュアー まず初めに、昨年は台風などもありましたが、振り返ってみていかがでしたでしょうか。

本田部長 昨年は台風第19号等による大きな水害により多くの農業者の方が被災されており、まず被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。農林業の被害総額は56億円を超え、市内広範囲で近年まれに見る甚大な被害を受けました。被害に遭われた農家の皆様の営農意欲の低下が懸念されるのですが、皆様に寄り添いながら精一杯支援に取り組んでまいります。



いわき市農林水産部
本田和弘部長

インタビュアー 続いて、今年度いわき市農林水産部で新しいロゴマークができたと同ったのですが、どのようなものか教えてください。



「いわきのめぐみ」
ロゴマーク

本田部長 「いわきのめぐみ」は、昨年10月に私たちが本市産品等のPRに取り組んでいくための新たなシンボルとして定めたロゴマークです。来年度が復興創生期間の最終年度ということで、新たなステージに向かっていく中で私たちが農林水産業者の皆様と共有して取り組んでいく思いを表しています。「いわきのめぐみ」には、「自然の恵み(めぐみ)」、「人の愛(めぐみ)」、「新時代の芽ぐみ(めぐみ)」という3つの特別な意味があり、「私たちはいわきのめぐみに感謝するとともにこれからもいわきの農林水産物の安全性やおいしさなどの魅力を伝えていこう」という思いが込められています。今後、様々なイベント等で活用していきたいと考えています。

インタビュアー 続いて、農業分野の取組について伺いたと思います。まず、いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」についてはどのような取組がありますか。

本田部長 「Iwaki Laiki」は市内の量販店でも多く取り扱われており、いわき市民のお米として浸透しつつあるのではないかと思います。いわき産を始めとする浜通り産コシヒカリは日本穀物検定協会の食味官能試験で平成28年から平成30年にかけて3年連続で最高評価“特A”を獲得しており、また、品質に比べて価格もお手頃であることから、さらに浸透を図っていきたいと考えています。

また、同銘柄の最上級米として「Premium Iwaki Laiki」がございます。これは「Iwaki Laiki」のなかでも生産者を限定し、品質も選りすぐりのものとしておりますが、消費者の皆様には「晴れの日」の特別な食べ物として味わっていただくというコンセプトを定着させたいと考えており、昨年12月には、その



販売を促進するため、飲食店等と連携したイベントである「Iwaki Laiki ライブキッチン」を開催しました。

このイベントでは、世界的有名グルメガイドブック「ミシュランガイド東京 2019・2020」に、おにぎり店として世界で初めて掲載された「おにぎり浅草宿六」さんが「Premium Iwaki Laiki」を使用した「おにぎり」をライブキッチン形式でその場で握って提供したり、その「握りの技術」を学んでもらうワークショップを開催したりするなど、イベントを通じて消費者に直接お米のおいしさを伝えることができました。



「おにぎり浅草宿六」3代目店主の三浦氏 直伝のおにぎりワークショップの様子

今後は、このイベントを通じて得られた知見を活かし、市内量販店等と連携して「おにぎり」の商品開発を進めるなど、消費者に直接「Iwaki Laiki」や「Premium Iwaki Laiki」を食していただく機会を作っていきたいと考えています。

インタビューー 次に、園芸作物の振興施策についてどのような取組がありますか。



昨年6月にワンダーファーム（市内四倉町）で開催した「トマトFes!!」

本田部長 本市では、「いちご」「トマト」「なし」「ねぎ」を「ブランド作目」として位置づけています。今年度は昨年6月に「トマトFes!!」、11～12月に市内飲食店に独自メニューを提供していただく「いわきベジめしウォーク」などのイベントを開催したほか、来月2日には「いわきいちごフェスティバル 2020」を開催予定（p.10 参照）です。また、「サンシャインいわき梨」の輸出については、今年度からベトナムに加えシンガポールへの輸出も開始され、いわき梨を海外の方に味わっていただく機会を広げています。今後も更なる消費拡大に向けて、ブランド作目としてのPRを進めてまいります。

インタビューー 続いて、いわき市が地産地消に関する新たな取組を開始したと伺いましたが、どのような取組か教えてください。

本田部長 昨年11月から、毎月19日の「食育の日」を中心に月1回、市内全ての公立保育所における給食の材料に地場産未利用品を活用する取組を開始しました。これは県内初の試みで、全国的にもあまり例のない取組ではないかと思えます。地場産未利用品とは、形・色など見栄えが劣るなどの理由から流通ルートに乗りづらい地元産農産物のことで、品質や安全性は市場に出回っているものと変わりはありません。そうした農産物を保育所で活用することで、生産者の収入アップはもちろん、地産地消の推進、保育所における食育の推進を図っています。来年度も引き続き、この事業に取り組んでいきたいと考えています。



未利用品（市産のニンジン、タマネギ、エリンギ、ネギ）を使った給食

インタビューー そのほかに、来年度農業分野で取り組みたいことはありますか。

本田部長 来年度は、中山間地域の農業振興のためのモデル事業を検討しています。これは、中山間地域の実証ほ場の実証作目を作付けし、直売所や市の施設等での販売や試食などを通して消費者への需要調査を行うことで、中山間地域における産地形成の足掛かりとするものです。実証作目としては、農業生産振興プランのブランド作目である「夏秋ねぎ」、市場における需要の高い作目である「いんげん」、JA 福島さくらにおいて推奨している新規作目である「ピーマン」、いわき伝統野菜である「小白井きゅうり」の4品目を予定しています。

また、2020年はオリンピックイヤーになりますので、GAPの認知度向上と消費者の理解促進も含めてGAPの認証取得に向けた取組を進めていきたいと思っています。さらに、オリンピックの盛り上がりを生かしたイベントにも取り組んでいきたいと考えています。

インタビュアー 次に、林業分野の取組についてはいかがでしょうか。

本田部長 やはり、中心となる課題は今年度施行された「森林経営管理法」への対応です。現在、国の「森林環境譲与税」を財源にしながら、適切な森林経営がなされていない場所において、市あるいは意欲のある林業経営者が管理していくという仕組みを国から示されています。それを踏まえ、具体的に本市ではどういう計画で取り組んでいくかという制度設計が今求められているところです。今後の林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立に向けて、この制度をいかに円滑に進めていくかが大きな鍵となると思っておりますので、来年度においても全力で取り組んでいく考えです。

また、地域材の活用についても首都圏や市内公共施設での活用も含め、引き続き利用拡大に努めていきたいと考えています。

インタビュアー 最後に、水産業分野の取組についてはいかがでしょうか。

本田部長 ご承知の通り、水産業は未だに復興の半ばにあります。本市における漁獲量は震災前の3割ほどの水準までしか回復しておらず、今後水産業をいかに復興させていくのかが大きな課題となっています。

そこで、震災を乗り越え、次世代につながる水産業へと再生すべく、昨年5月に、漁業者、流通・量販店などの水産関係団体等で構成する「市水産業振興協議会」を設置しました。今後の「常磐もの」の販売戦略や消費拡大など、効果的な推進策について現在検討を進めているところです。この協議経過を踏まえ、来年度は新たに「常磐もの」の更なるブランド力向上を図るため「浜の名産品」づくりにも取り組んでいきたいと考えています。



(市水産業振興協議会の様子)

また、現在市議会で「(仮称)いわき市魚食の推進に関する条例」の制定が進められています。その制定と呼応する形で、特に若い世代を対象として、もともといわきにある伝統的な魚食文化と今の若者たちが取り組みやすい魚食イベントを融合しながら、魚食の推進を図っていきたいと考えています。また、若い世代に魚食に慣れ親しんでいただくには給食での活用が重要だと思っておりますので、学校給食での「常磐もの」を中心とした魚食の提供に向けた取組も進めていきたいと考えています。

インタビュアー ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします！

「冬のいわきを堪能せよ！農村体験ツアー」開催〔1月11日(土)～12日(日)〕

首都圏の大学生を対象に、いわき市田人町、四倉町、遠野町等を舞台とした1泊2日の農村体験ツアーを実施しました。

当日は、首都圏の13大学から19名の学生が参加し、凍み大根づくりや(株)ワンダーファームの施設見学・トマト狩り体験、(株)いわき遠野らぱんの食品加工場見学等の行程を通して、地元住民と交流を深めました。



(凍み大根づくり体験の様子)

田人町貝泊地区(p.11 地図参照)では、地域おこしに取り組む「貝泊コイコイ倶楽部」の10名の方のご協力のもと、大根を切って干す凍み大根づくりや、杵と臼を使った餅つきを体験しました。体験会場には、田人町の住民や東日本国際大学の学生など約10名の方が駆けつけ、参加大学生は地元住民と交流しながら冬の農村のゆったりとした雰囲気を楽しんでいました。その後、宿泊先の田人おふくろの宿で実施した地元住民との夕食交流会では、地酒や凍み大根を使った料理が振る舞われたほか、遠野地区青年会の皆さんによる「じゃんがら念仏踊り」が披露され、いわきの食文化や伝統文化への理解を深めました。

ツアーの締めくくりとしては、参加大学生がいわきの5年後の姿に想いを馳せて「未来新聞」を作成し、貝泊コイコイ倶楽部の蛭田一会长、いわき遠野らぱんの平子佳廣代表をはじめ、地元の方々



(「未来新聞」発表の様子)

に発表を聞いていただきました。参加大学生からは、「東京に帰ったら身近な人にいわきの魅力を伝えて、次は友達を連れて来たい」、「今度、いわき産の米や野菜を見かけたら購入する」などの声が聞かれました。

今回作った凍み大根は後日参加者の自宅に発送されるほか、2月には東日本国際大学の学生が貝泊の味噌漬けを販売する都内のイベントに首都圏大学生が合流するなど、今後も交流が継続していくことが期待されます。

(企画部)

いわき市中央卸売市場・公設地方卸売市場初市式〔1月4日(土)・5日(日)〕

いわき市中央卸売市場・公設地方卸売市場(p.11 地図参照)において、令和2年初市式が開催されました。

初市式は、1月4日に花き部、5日に水産部・関連事業部・青果部と各部ごとに行われ、開設者の清水敏男いわき市長のあいさつ、菅波健いわき市議会議長の祝辞の後、各部代表者の発声による手締めが行われ、一年の活況を祈念しました。



(初競りの様子)

その後、初競りが行われ、花き部ではキク・バラ・カーネーションなどの色彩豊かな切り花が競りにかけられ、場内が活気づきました。

また青果部においては、野菜・果物などで飾られた宝船や美しく飾られたキノコや野菜が、競り人のかけ声に応じて次々と競り落とされていきました。

JA福島さくらいわき地区本部とねぎ部会の協力で、毎年恒例のねぎ汁の振る舞いも行われ、参加者からは「寒い朝には一番だね」、「いつも美味しいねぎ汁ありがとう」との声も聞かれました。

今後も市民の台所として、生鮮食品などの安定供給が期待されます。

(農業振興普及部)

第2回経営セミナーを開催

〔1月7日(火)〕

JA 福島さくらいわき地区本部において、さくら中央税理士いわき中央事務所の木幡仁一税理士を講師として、今年度2回目となる経営セミナーを開催しました。

セミナーにはいわき地域の農業者、就農希望者、農業共済組合いわき支所、いわき農林事務所の職員など20名が出席し、令和元年10月1日から実施された消費税軽減税率制度及び台風被害に対応した税務申告についての研修を受けました。

セミナー終了後のアンケートによると、研修内容について理解が深まったという回答や、2023年から段階的に導入予定であるインボイス制度のセミナーを開催してほしいとの要望が挙げられました。

本セミナーでのアンケート結果を参考にし、引き続き経営改善に関する研修会の開催に取り組んでまいります。

(農業振興普及部)



(セミナーの様子)

林業労働安全衛生講習会

〔1月8日(水)〕

いわき市森林組合の主催による令和2年林業労働安全衛生講習会が、いわき新舞子ハイツにおいて開催されました。

「気を抜くな 慣れた作業に 落とし穴 基本動作で再確認」をスローガンに伐採現場で働く作業員など約90名が参加しました。いわき労働基準監督署からは、令和元年(11月末現在)に県内で発生した13件の死亡災害(全産業)のうち、立木の伐採に関係する事故が3件発生していることが報告されたほか、いわき市消防本部からは、林業の現場で発生した事故を通報する際には、現場へのアクセス状況(救急車の進入の可否)の情報が重要であることが伝えられました。

最後に「ゼロ災でいこう」を唱和し、参加者全員で無事故の誓いを新たにしました。

(森林林業部)



(講習会の様子)

いわき市漁業協同組合久之浜出初め式

〔1月8日(水)〕

いわき市漁業協同組合久之浜支所の出初め式が執り行われました。

式は昨年9月に8年半ぶりに再開した久之浜魚市場内で行われ、江川組合長をはじめ、久之浜支所の漁業者約30名と女性部員、漁協職員、地域住民など合わせて約60名が参加しました。出港に先立ち、神職が祝詞を奏上し、漁船と船頭へのお祓いを行い今年の漁の安全を

祈願しました。神事の後には支所で最も大きい底びき網漁船を先頭に、漁船30隻

ほどが出港し、久之浜漁港の周りを1周しました。当日は風もなく波も比較的穏やかで、女性部員や地域住民から漁船に大きな歓声が上がっていました。出荷制限対象魚種は1種となり、今年は本格操業に向け、更なる水揚量の増加が期待されます。

(水産事務所)



(出港する底びき網漁船)



(神事の様子)

平木材市場の「初市」開催

〔1月9日(木)〕

いわき市内郷綴町の株式会社平木材市場(p.11 地図参照)において、令和2年「初市」が開催されました。

式典では、平木材市場齋藤公男社長をはじめとする新春の挨拶の後、参加者全員で乾杯が行われ、今後の平木材市場の発展及び取引の活性化を祈念しました。

市場内には、年末年始にかけて県内を中心に集められた素材約3,500m³と製材品約1,000m³が所狭しと並べられ、今年最初の競りにかけられました。

良質材が出てくる冬の時期ということもあり、いわき市内をはじめ県内外から集まった買方は、熱心に競りに参加していました。

(森林林業部)



(初市の様子)

いわき地方特定家畜伝染病防疫演習を開催

〔1月17日(金)〕

いわき市民プール棟(p.11 地図参照)において、特定家畜伝染病の発生を想定した防疫演習を実施しました。

CSF(豚コレラ)や高病原性鳥インフルエンザは、家畜伝染病予防法において法定伝染病に位置づけられており、発生した場合には国の防疫指針に基づき速やかに防疫措置を講じる必要があります。

今回の防疫演習では、関係機関・団体より約160名が参加し、防護服の正しい着脱方法や車両の消毒、コンクリートパネルを使用した豚の追い込み等の演習を通して、防疫措置に関する知識の習得や、有事発生の際の対応力向上を図りました。

参加者からは、「有事発生時の流れを理解できた」「防護服の着用方法がわかって参考になった」などの声が聞かれました。

特定家畜伝染病発生に備え、引き続き万全な体制整備に努めてまいります。(農業振興普及部)



(豚の追い込み演習の様子)

ほ場整備事業説明会

〔1月14日(火)・20日(月)・21日(火)〕

いわき管内でほ場整備事業を検討している地域において、いわき市農地課主催のほ場整備事業説明会が開催され、ほ場整備の概要・ポイントについて説明しました。

高齢化等で農業を続けられず、後継者もいないため農地を手放そうと考えている方が増えていることもあり、いわき管内ではほ場整備事業に取り組もうとする地域が増えてきています。ほ場整備は地域の農業経営を安定かつ発展させることを目的に行われるものであり、地域内の将来の営農計画や合意形成が重要となりますので、まずは地域内で将来について話し合いを重ねていただき、説明のご要望等があればいわき市農地課までお声がけください。(農村整備部)



(赤沼地域での説明会の様子)



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

□ 農林畜産物の出荷制限等品目

令和2年1月20日現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷が制限等されている品目は(表1)のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。(企画部)

(表1) 農林畜産物の出荷制限等品目(令和2年1月20日現在)

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ(摂取も制限)
出荷自粛	山 菜	さんしょう(野生のものに限る)

※わらび(栽培)は該当生産者12名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の出荷制限等品目

令和2年1月15日現在、出荷制限等指示魚種は(表2)の1種類になっています。(水産事務所)

(表2) 海産魚介類の出荷制限等品目(令和2年1月15日現在)

制限、自粛	品 目
出荷制限	コモンカスベ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和元年12月分)

□ 農林畜産物の検査結果

令和元年12月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した7品目21検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。内訳は(表)のとおりです。(企画部)

(表) 放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ネギ 3、菌床しいたけ(施設) 9、ハクサイ 1、ブロッコリー 1、イチゴ(施設) 1、牛肉 2、原乳 4

□ 海産魚介類の検査結果

令和元年12月の水産物モニタリング検査では、450検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。(水産事務所)

速報!

第3回高校生レシピコンテスト グランプリ決定!!

1月25日(土)、常磐共同ガス株式会社キッチンスタジオ「ステラ」において開催された「第3回高校生レシピコンテスト」2次審査(実食審査)において、グランプリ・準グランプリ作品が右のとおり決定いたしました!審査当日の様子は、2月号で詳しくご紹介いたします。

お知らせ① 2次審査の様子がテレビで放送されます!

- 日 時: 令和2年2月8日(土) 20:54~20:57
- 番組名: 福島中央テレビ「ふくしまチャレンジ情報館」

お知らせ② グランプリ受賞メニュー等が実際に食べられます!

高校生の考えたオリジナルメニューが市内協力店舗において期間限定で提供されます!

- 実施期間: 令和2年2月14日(金)~23日(日)
- 実施店舗: 下記の店舗にて実施予定です。
 - ・マンマ・マリィ イオンモールいわき小名浜店
 - ・いわきFC オフィシャルカフェ RED&BLUECAFE
 - ・ワンダーファーム 森のキッチン

また、下記のとおり試食会も実施します!(一部のメニューのみ)

- 日 時: 令和2年2月15日(土) 時間未定
- 場 所: マルトSC 高坂店 (p.11 地図参照)

詳細については、当所ホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>) で随時お知らせいたします。この機会に是非、地元食材への情熱のこもったレシピをご賞味ください! (企画部)

グランプリ



「フレッシュトマトの
なめらかミルクプリン」
勿来高等学校1年 佐藤さくらさん
草野ひなたさん

準グランプリ



「まるごとトマトのスープ餃子」
いわき光洋高等学校1年 高萩理奈さん

トピック1

相馬双葉漁協所属船の小名浜魚市場への水揚げ再開!

令和元年12月4日、震災から8年ぶりに小名浜魚市場で相馬からの漁船の水揚げがありました。これは相馬双葉漁業協同組合に所属する沖合底びき網漁船3隻によるもので、マアナゴをはじめ、ヒラメ、ヤナギムシガレイなど1.4トンが水揚げされました。

震災前の同漁協所属の沖合底びき漁船は、季節によりいわき市沖や茨城、千葉等の県外漁場での操業を行っており、小名浜は重要な拠点でした。今回の水揚げは、今後の操業拡大に繋がる大きな一歩となることで

しょう。初回の水揚げには、岸壁に船を迎える漁業者の家族もあり、目に涙を浮かべる姿が印象的でした。

12月は3隻ずつが3グループの交代制で週1回の操業を行い、17日までに水揚量は約13トン、漁獲金額は約6百万円となりました。地元仲買業者にとっても待ち望んだもので、相馬の船の入港日には小名浜魚市場はいつもより活気に溢れるように感じます。

今後もこの小名浜水揚げは継続する予定で、いわき地区、相双地区それぞれの水揚げ拡大に向けて、良い刺激になることが期待されます。



(入港する底びき網漁船)

(水産事務所)

イベント情報

いわきいちごフェスティバル 2020

- 日 時：令和2年2月2日(日) 10:00~14:00
- 会 場：小名浜美食ホテル(小名浜潮目交流館) (p.11 地図参照)
- 主 催：いわき市農業生産振興協議会

旬のいちごがたっぷり味わえるイベントを開催します！いわきいちごの直売のほか、市内飲食店等のいちごを使ったスイーツも多数登場！是非、足をお運びください！

いわき交流ひろば

- 日 時：令和2年2月16日(日) 10:00~15:00
- 場 所：平中央公園 (p.11 地図参照)
- 主 催：福島県いわき地方振興局

台風第19号の影響により中止となった「いわき大交流フェスタ2019」を名称改め、「いわき交流ひろば」として開催します！！
 いわき地域と双葉地域の美味しい食が大集合♪東京オリンピック・パラリンピックの競技種目を体験することもできます！食べて・動いて、心も体も温まって、楽しい1日になること間違いなし！
 さらに、いわきアリオス大リハーサル室にて、いわき地域の復興と未来を考えるワークショップも同時開催します！
 イベントの詳細については、福島県いわき地方振興局 HP や公式 Facebook「いわきフラキピタン」でも発信していきますので、そちらもご確認ください。



いわき交流ひろばに当所も出展！

会場内で第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施し、**GAP(農業生産工程管理)の紹介、いわき産 FGAP 認証いちごの試食**等を実施します！アグリ☆ファイトの「**さる1号**」も皆様のお越しをお待ちしております！ (企画部)

トピック2

いわき地区(広域農道整備事業)の施工状況について

広域営農団地農道整備事業いわき地区は、農産物流通の円滑化などを目的に、小川町上小川地域から四倉町八茎地域までの延長約10kmを結ぶ農道として平成3年度より事業を進めております。現在の事業進捗率は約94%で、小川町の農道始点部(県道小野四倉線との取付部)周辺を中心に工事を進めています。

30年に及ぶ農道事業もいよいよ完成間近となっており、1日も早い全線開通に向け鋭意施工を進めてまいります。(農村整備部)



橋梁工事の施工状況
(コンクリート打設)



擁壁工事の施工状況
(壁面パネル設置)



橋梁工事の施工状況
(桁架設に先立つ仮設)

令和元年度第1回いわき地方認証 GAP (関係法令) 研修会を開催

1月9日(木)、いわき市平消防署において、令和元年度第1回いわき地方認証 GAP (関係法令) 研修会を開催しました。

認証 GAP の取得に当たって、取得農場では「応急手当ができる人員の確保」と「その人員が応急手当の訓練を受けていることの証明」が求められることから、本研修会は普通救急救命をテーマに実施しました。

当日は、現在認証 GAP の取得を目指している3農場と既に認証 GAP を取得している3農場から計12名の方が参加し、講師(消防署の担当職員)から心肺蘇生法や AED の使用方法について説明を受け、実技を行いました。



(研修会の様子)

参加者からは、「応急手当についてよく理解できた。今後農場でけが人が出ても、焦らずに対応したい」との声が聞かれました。当部では、引き続き認証 GAP 取得に関連する資格や法令に関する研修会を開催し、認証 GAP の取得・維持更新を支援してまいります。(農業振興普及部)

今月号に掲載した場所はここです!

- ① 田人町貝泊地区(貝泊集会所) (p.5)
田人町貝泊久子ノ内 47
- ② いわき市中央卸売市場・公設地方卸売市場 (p.5)
鹿島町鹿島 1
- ③ 株式会社平木材市場 (p.7)
内郷綴町堀坂 32
- ④ いわき市民プール棟 (p.7)
平下荒川南作 101
- ⑤ マルト SC 高坂店 (p.9)
内郷高坂町八反田 55
- ⑥ 小名浜美食ホテル (p.10)
小名浜辰巳町 43-9
- ⑦ 平中央公園 (p.10)
平三崎 1
- ⑧ 玉屋菓子店 (p.12)
四倉町上仁井田前原 22-7



こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

四倉町の国道6号線沿いに店舗を構える「どら焼きの専門店 玉屋菓子店」は、創業から70年以上の歴史がある老舗のお菓子屋で、どら焼きなどすべての商品を丁寧に手作りしております。

そんな玉屋菓子店では、大野水耕生産組合、(有)とまとランドいわき(ともに四倉町のいちごとピコブルーベリー農園(大久町)のブルーベリーを使ったどら焼きが人気となっております。

いちごを使ったどら焼き「どら♡いちご」は試行錯誤の末、いちごの風味とあんこが絶妙にマッチした商品となり、絶品です。

また、非常に珍しい「ブルーベリーどら焼き」は、ブルーベリーの酸味とあんこの組み合わせが絶妙です。なお、ブルーベリーどら焼きは、通常販売はされておらず、注文のみの販売となっております。お求めの際は、事前のご連絡をお願いします。

「どら♡いちご」やその他商品は、玉屋菓子店、イオンいわき平店、JA直売所、道の駅よつくら港で取り扱っております。こだわりのどら焼きを是非お召し上がりください。



玉屋菓子店 店主の志賀氏

どら♡いちご		販売価格 1個 150円 (税込)
ブルーベリーどら焼き		販売価格 1個 198円 (税込)

お問い合わせ

どら焼きの専門店 玉屋菓子店

- いわき市四倉町上仁井田前原22-7
- TEL.0246-32-2029
- HP:https://tamaya-dorayaki.com

所在地は p.11 のマップを参照



編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も本誌ではいわき管内の農林水産業に関する様々な情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします！

p.5 で取り上げた「農村体験ツアー」では、地域の皆様の温かい歓迎の中、首都圏の大学生に意欲的に体験に取り組んでいただき、いわきの“食”や農村地域の魅力を堪能してもらえたのではないかと思います。今後も地域に寄り添いながら、体験・交流等の取組を続けていければと思います。

さて、表紙でご紹介した「ふくはる香」は来月のイベント(p.10)にも登場！旬の味覚を是非味わってみては？

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース